

令和6年度 自己点検・評価報告書

令和7年3月31日現在

学校法人 原学園

専門学校 青山ファッションカレッジ

令和7年5月31日作成

目 次

教育目標と本年度の重点目標の評価.....	1	基準5 学生支援.....	21
基準1 教育理念・目的・育成人材像.....	2	5-16 就職等進路.....	22
1-1 理念・目的・育成人材像.....	3	5-17 中途退学への対応.....	23
基準2 学校運営.....	4	5-18 学生相談.....	24
2-2 運営方針.....	5	5-19 学生生活.....	25
2-3 事業計画.....	6	5-20 保護者との連携.....	26
2-4 運営組織.....	7	5-21 卒業生・社会人.....	27
2-5 人事・給与制度.....	8	基準6 教育環境.....	28
2-6 意思決定システム.....	9	6-22 施設・設備等.....	29
2-7 情報システム.....	10	6-23 学外実習、インターンシップ等.....	30
基準3 教育活動.....	11	6-24 防災・安全管理.....	31
3-8 目標の設定.....	12	基準7 学生の募集と受入れ.....	32
3-9 教育方法・評価等.....	13	7-25 学生募集活動は、適正に行われているか.....	33
3-10 成績評価・単位認定等.....	14	7-26 入学選考.....	34
3-11 資格・免許の取得の指導体制.....	15	7-27 学納金.....	35
3-12 教員・教員組織.....	16	基準8 財務.....	36
基準4 学修成果.....	17	8-28 財務基盤.....	37
4-13 就職率.....	18	8-29 予算・収支計画.....	38
4-14 資格・免許の取得率.....	19	8-30 監査.....	39
4-15 卒業生の社会的評価.....	20	8-31 財務情報の公開.....	40

基準 9 法令等の遵守	41
9-32 関係法令、設置基準等の遵守.....	42
9-33 個人情報保護.....	43
9-34 学校評価.....	44
9-35 教育情報の公開.....	45
基準 10 社会貢献・地域貢献	46
10-36 社会貢献・地域貢献.....	47
10-37 ボランティア活動.....	48

教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	令和6年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決方策
<p>『社会に出て通用する人材の育成』を目的とした、ファッション専門教育および人間教育を永続的に実施し、多くの有能な人材をファッション界に輩出することにより、社会に貢献することを教育理念とし、少人数制により実務経験豊富な教員が親身な指導を行い、学生一人ひとりの目的達成に導くことを目標とする。</p>	<p>学生の満足度向上を図ることを重点目標と位置づけ、授業内容・授業運営方法の一層の充実を図るとともに、学生一人ひとりに対する適切な就職指導など、従前に引き続き、更なる教育の質の向上を推進する。また、コロナ禍で減少した入学者数を、コロナ以前の水準に戻すべく広報活動の強化を図る。</p>	<p>学生による授業評価調査の結果、授業満足度は昨年より若干低下し、満足傾向 81.4%・中庸傾向 11.8%・非満足傾向 6.8%となった。調査結果を授業ごとに検証し、改善が必要な事項等についてのフィードバックを行った。全体的な授業満足度向上に向けては、時代のニーズに対応した実務経験豊富な教員を増強するとともに、カリキュラムを一部改定したほか、授業要項（シラバス）により、授業目的・到達目標・評価基準・教員の実務経験等の明確な開示を行った。また、産学連携やインターンシップによる実社会での職業体験を実施し、実践的な学習により知識・技術の向上を図り、将来の職業選択をする上での有用性が認められた。入学者数に関しては、広報活動を強化したが、昨年度より入学者数は減少してしまった。</p>	<p>少人数制の教育の中で以下に学生に対し適切な指導を行い、授業科目にもよるが、学生一人ひとりの到達レベルの設定を可変的なものとし、達成感を得やすい授業運営を行うことが肝要であり、そのための指導方法の考察・試行を、次年度以降に向けての継続検討課題とする。</p> <p>また、コロナ禍以前の入学者数の水準を確保することが課題であり、引き続き広報活動の更なる強化を図る。</p>

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>理念・目的・育成人材像は明確に定められており、その達成に向け特色ある教育活動が行われている。また、ファッション業界のニーズや社会のニーズを把握するための情報収集を定常的に行い、カリキュラムへの反映や将来構想の計画化を図るなど、柔軟な対応と同時にタイムリーな意思決定が行われている。</p>	<p>理事・評議員・教員・職員が情報を共有し、本校ならではの校風や特色を活かしつつ、時代の流れや業界・社会のニーズを踏まえ、機動的な組織対応を行うなど、柔軟性を重視した学校運営が行われている。</p>

最終更新日付	令和 7 年 5 月 3 1 日	記載責任者	中村 道雄
--------	------------------	-------	-------

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	理念・目的・育成人材像が定められていることは当然であり、学校運営の基本となるものと考えている。	明確に定めている。	時代の変化に即して育成人材像などは外部からの意見も取り入れ柔軟に設定していくことが今後必要となる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学則 ・事業報告書 ・学校説明会資料 ・教育方針（ホームページ）
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	本校はファッション・服飾分野に専門特化した単科校であり、業界ニーズに合わせた人材育成を目的とし、職域別に4つの学科を設置している。	4学科それぞれに、業界の人材ニーズに合わせたカリキュラムを構築している。	時代の変化に即応するため、管理者・教員・職員ともに情報収集を怠らず、重要性に応じて、次年度のカリキュラムに即刻反映させるなど、柔軟な対応を行うものとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学則 ・学校案内 ・業務運営方針
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	特色は学校の良さに通じるものであり、理念に次いで重要な要素と位置づけ、特色ある教育活動に取り組んでいる。	特色あるカリキュラムの構築や教員の選任を行っているほか、学生が学びやすい校風の維持に努めている。	青山という立地を活用したカリキュラムの拡充を今後検討していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内 ・学校説明会資料 ・業務運営方針
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	学校制度および業界動向の変動が激しい時代にあるため、将来を見据えつつ柔軟性を重視した学校運営を行っている。	収集した情報を教員・職員および理事会で共有し、校長のリーダーシップの下、将来的な構想を練り計画化に繋げている。	業界関係者や就職先企業との接触を密にし、教育分野およびファッション業界の動向把握に努めるものとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・業務運営方針

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理念・目的・育成人材像は明確に定められており、その達成に向け特色ある教育活動が行われている。また、ファッション業界のニーズや社会のニーズを把握するための情報収集を定期的に行い、カリキュラムへの反映や将来構想の計画化を図るなど、柔軟な対応と同時にタイムリーな意思決定が行われている。	理事・評議員・教員・職員が情報を共有し、本校ならではの校風や特色を活かしつつ、時代の流れや業界・社会のニーズを踏まえ、機動的な組織対応を行うなど、柔軟性を重視した学校運営が行われている。

最終更新日付

令和7年5月31日

記載責任者

中村 道雄

基準 2 学校運営

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>理念を基本とし、その時々々の社会情勢や環境を反映した業務運営方針及び事業計画を毎年策定し、PDC Aサイクルにより 1 年毎にローリングを実施している。この業務運営方針が当該年度の行動指針となるものであり、教員・職員に周知し、実際の業務運営に繋がるよう徹底するとともに、事業計画に沿った適切な学校運営を行っている。</p>	<p>年度末に開催する教員全体会議のほか、秋季に実施する個別ヒアリングや日常的な教職員とのミーティングを通じて、業務運営方針の周知徹底を図るとともに、進捗状況の管理を行っている。また、事業計画は業務運営方針とリンクするものであるが、同時に資金収支等の予算を計画するものでもあり、長期安定的な学校経営を目指した計画立案を行っている。</p>

最終更新日付	令和 7 年 5 月 3 1 日	記載責任者	中村 道雄
--------	------------------	-------	-------

2-2 運営方針

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	業務運営の基本となるのは理念であり、その方針策定においても、理念をベースに構築されている	毎年、事業計画を立案し、業務運営方針を定めている。その際、基本となるのが理念である	とくになし	<ul style="list-style-type: none"> ・学則 ・事業報告書 ・業務運営方針

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理念を基本とし、その時々々の社会情勢や環境を反映した業務運営方針を毎年策定し、PDCAサイクルにより1年毎にローリングを実施している。この業務運営方針が当該年度の行動指針となるものであり、教員・職員に周知し、実際の業務運営に繋がるよう徹底している。	年度末に開催する教員全体会議のほか、秋季に校長が行う個別ヒアリングや日常的な教職員とのミーティングを通じて、業務運営方針の周知徹底を図るとともに、進捗状況の管理を行っている。

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

2-3 事業計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	業務運営方針と併せて、具体的な行動指針となる事業計画を定めることは必要不可欠である。	毎年、業務運営方針策定と同時に、事業計画を定め、当該年度の事業運営の指針としている。	職業実践専門課程への申請等、制度の見直しの対応を実施していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・学則 ・事業報告書 ・事業計画

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理念を基本とし、業務運営方針と併せて、その時々々の社会情勢や環境を反映した事業計画を毎年策定して、PDCAサイクルにより1年毎にローリングを実施し、事業計画に沿った適切な学校運営を行っている。	事業計画は、業務運営方針とリンクするものであるが、同時に資金収支等の予算を計画するものでもあり、長期安定的な学校経営を目指した計画立案を行っている。

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

2-4 運営組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	法人として寄附行為に定めた事項を遵守し、適切な組織運営を行うことは必要不可欠である。	寄附行為に定められた役員、理事会、評議員会を置き、適切な組織運営を行っている。	特になし。	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附行為 ・事業報告書 ・組織図
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	小規模な学校であるが故、必要最小限のコンパクトな組織で、適正かつ機動的な組織運営を行うことを目標としている。	業務の効率性・機動性を重視した学校運営に必要な組織を整備し、担当者毎に事務分掌を定めている。	効率的かつコンパクトな組織としているため、人的余力が乏しく、繁忙期等は組織を横断して業務を補完するものとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・組織図 ・事務分掌一覧

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
法人として寄附行為に定めた事項を遵守し、適切な組織運営を行うとともに、学校運営のための組織を整備し、適正かつ効率的・機動的な組織運営を行っている。	小規模な学校であるため、必要最小限のコンパクトな組織とし、業務の効率性・機動性を重視している。一方、業務繁忙期等は組織を横断して業務を補完しあう体制を敷いている。

最終更新日付

令和7年5月31日

記載責任者

中村 道雄

2-5 人事・給与制度

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	就業規則及び教職員給与規程を整備し、それらに基づいた人事・給与の施策を実施・運用するものとする。	就業規則、教職員給与規程に基づき、適切な運営がなされている。	多様化している働き方に対応していくことが必要となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・就業規則 ・教職員給与規程

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就業規則及び教職員給与規程を整備し、それらに基づいた人事・給与の施策を適切に実施・運用している。	多様化している働き方に対応していくことが必要になっている。

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

2-6 意思決定システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	校長・理事会・評議員会・教員・職員が情報を共有し、機動的に組織対応を行う意思決定システムであることが肝要。	理事会、評議員会、教員全体会議のほか、教員ヒアリング、教職員ミーティングを通じ校長が調整・決裁を行う。	職員会議の定例化を今後検討し、そこで現場レベルの意思決定を促進していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会議事録 ・評議員会議事録 ・教員全体会議資料 ・業務運営方針

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理事会、評議員会、年度末に開催する教員全体会議のほか、秋季に校長が行う教員ヒアリングや日常的な教職員とのミーティング等を通じて、情報を共有し、状況を把握した上で、校長が関係者と意見調整を図り、機動的に決裁を行う。	小規模校であるが故、校長を中心に、理事・評議員・教員・職員が常に情報を共有し、本校ならではの校風や特色を活かしつつ、時代の流れや業界・社会のニーズを踏まえ、機動的かつ迅速に組織対応を行えることは、本校の強みと言える。

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

2-7 情報システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	事務管理の観点から、情報システムにより合理化・省力化・戦略化が図られる業務に関しシステム化を推進する。	大規模開発は行わず、必要業務の既製アプリ・クラウド等を導入し、またプログラムを自作し、システム化を図っている。	今後 teams をはじめとした LMS の導入を検討していく。	・システム構成図

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
事務管理の観点から、情報システムにより合理化・省力化・戦略化が図られる業務に関しシステム化を推進する。小規模校でありデータ量が膨大ではないため、大規模システムの開発は行わず、既製アプリ・クラウド利用および個別業務のプログラミング（自作）により業務のシステム化を図っている。	今後 teams をはじめとした LMS の導入を検討していく。

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

基準 3 教育活動

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育理念である「社会に出て通用する人材の育成」を基本とし、目標とする職業を明確にした上で、就職及び仕事に必要な知識・技術等の習得を目的とした教育課程編成・実施に努めている。</p> <p>各課程においては、授業科目毎にシラバス（授業要項）を設置し、授業内容や到達目標を示すことで、修業年限における教育到達レベルを明確にし、学生に周知するとともに、ホームページで入学対象者等の閲覧を可能にしている。</p> <p>また、時代の変化に合わせ、教育内容を見直すとともに、目標とする職業を明確にし、就職及び仕事に必要な知識・技術等の習得およびキャリア教育を重視した教育課程の編成を行っている。</p> <p>授業評価は毎年実施し、結果を全教員にフィードバックするとともに、次年度の授業計画に反映させ、授業内容・授業運営の改善を図っている。</p> <p>成績評価基準は、授業毎に公平かつ厳正な基準を設け、授業要項に明示し全学生に伝達するとともに、修了認定は年間総合成績を基に、学則の「卒業に必要な授業時数」を基準として適切に判定している。（GPAを導入済）</p> <p>また、作品や習得した技術等の成果は、卒業・修了制作展やホームページを通じて外部に発表し、優秀者には表彰を実施している。</p> <p>資格取得に関しては、学科の特性に合わせ、学科毎に目標とする資格を定め、授業の一環として指導を行うほか、補習授業での対応や質疑による個別フォローを行うことにより、資格取得の向上に努めている。</p> <p>教員は、実務経験を有する人材を多く登用し、学科毎の特性を重視した教育に必要な組織を以って、クラス担当（担任）を配置するとともに、授業科目毎の担当教員を定め、専修学校設置基準第41条の資格・要件を備えた者を教員として確保している。</p> <p>また、教員の資質向上は、教育者としての人材育成および業界情報収集の観点から重要であり、セミナー・講習会への参加を奨励している。</p>	<p>教育課程は、時代の変化に合わせてタイムリーに修正していく必要があり、随時、業界関係者等から情報収集を行い教育課程に反映させるよう注力している。</p> <p>ただし、アパレル企業は会社毎に業務手法が異なるため、教育課程の編成に際し、特定の企業や個人の意見に偏ることなく、広範な情報収集を行い、的確な情報・意見を選別して、学校としての統一見解を示し、広範な企業・職種への就職対応ができるよう課程編成を行うとともにキャリア教育を実施している。</p> <p>また、インターンシップ（企業研修）を積極的に実施し、在学中に職場体験が行える体制を整備している。</p> <p>卒業・進級は、普通に授業に参加している学生に問題が生じることはないが、怠業等により、年間総合成績において僅かな要件不足で卒業・進級が不可となる学生に対しては、卒業・進級特別授業を行い不足していた要件を補うことで、卒業・進級できる機会を与えている。</p> <p>作品や習得した技術等の成果の把握・発表に関しては、卒業・修了制作展以外に、学習成果を外部に発信する新たな取り組みとして、企業とのコラボによるプレゼンテーションやSNSを利用した作品紹介を行っている。</p> <p>資格取得に関しては、ファッション業界の資格は国家資格でない為、原則として受験を強制せず、学生本人の希望に合わせた形で取得できるように指導している。</p> <p>また、本校では、実務に即した実践的な教育を行うために実務家教員を多く配置している。ただし、仕事の都合で出校できないケースもあるため、予め補講日やバックアップ教員を定めるなど、補完体制の整備に努めている。</p>

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

3-8 目標の設定

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	教育理念である「社会に出て通用する人材の育成」を基本とし、教育課程の編成方針、実施方針を定めている。	目標とする職業を明確にし、就職及び仕事に必要な知識・技術等の習得を目的とした教育課程編成・実施に努めている。	職業実践専門課程の申請に合わせ、教育課程編成委員会を開催し、外部からの意見反映に努めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・学則 ・学校案内
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	授業科目毎にシラバス（授業要項）を設置し、授業内容や習得目標を示すことで、修業年限における教育到達レベルを明確にしている。	年度始めにシラバス（授業要項）を学生に配布し、当該年次における教育到達レベルを明示するとともに、ホームページでも情報公開している。	授業科目によっては教育到達レベルの表現が難しい場合があるため、できる限り客観的に判断できる指標・表現方法を模索する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス（授業要項） ・授業予定表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育理念である「社会に出て通用する人材の育成」を基本とし、目標とする職業を明確にした上で、就職及び仕事に必要な知識・技術等の習得を目的とした教育課程編成・実施に努めている。各課程の授業科目毎にシラバス（授業要項）を設置し、授業内容や習得目標を示すことで、修業年限における教育到達レベルを明確にし、学生に周知するとともに、ホームページでも公開している。	教育課程は、時代の変化に合わせてタイムリーに修正していく必要があり、随時、業界関係者等から情報収集を行い教育課程に反映させるよう注力している。また、教育到達レベルの表現が難しい授業科目もあるため、できる限り客観的に判断できる指標・表現方法を模索することといたしたい。

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

3-9 教育方法・評価等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	時代の変化に合わせて授業内容を見直し、教育目的・目標に沿った効果的な学習を行うための教育課程の編成を行う。	目標とする職業を明確にし、就職及び仕事に必要な知識・技術等の習得を目的とした教育課程の編成を行っている。	時代の変化に合わせて教育課程の修正を行う場合、教員の入替えが必要となり、雇用面の対応に困難を伴うことがある。	<ul style="list-style-type: none"> ・学則 ・業務運営方針 ・シラバス（授業要項）
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	特定の企業や個人の意見に偏ることなく、広範な情報収集を行い、的確な情報・意見を選別して教育課程に反映させる。	就職先企業や業界で仕事をしている教員からのヒアリング、業界新聞等の情報を元に分析を行い、教育課程に反映。	アパレル企業は会社毎に業務手法が異なるため、各企業の考え方を総合して、学校としての統一見解を示す必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・業務運営方針 ・学則新旧対比表 ・シラバス（授業要項）
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	業界の仕事を理解し、自分に合ったキャリア形成を目指して就職に臨むことが重要で、そのためのキャリア教育を重視。	「就職ガイダンス」や「ビジネスプレゼンテーション」のほか、個別指導・相談で、きめ細かいキャリア教育を実施。	新卒での求人が極めて少ない職種を目指す学生への指導が難しく、時として就職しやすい職種への誘導も必要となる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内 ・シラバス（授業要項）
3-9-4 授業評価を実施しているか	学生の授業満足度を高めることは最重要事項であり、そのために授業評価を実施し、問題点を把握し、授業内容・授業運営等の改善を図る。	毎年、全授業の授業評価を実施し、結果を全教員にフィードバックしている。問題点があれば、即刻改善するとともに、次年度の授業計画に反映させる。	学生の理解度やモチベーションに差があるため、授業難易度等の設定が難しく、人によって授業満足度の評価にばらつきが生じる場合がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価調査票 ・シラバス（授業要項）

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
時代の変化に合わせて授業内容を見直すとともに、目標とする職業を明確にし、就職及び仕事に必要な知識・技術等の習得およびキャリア教育を重視した教育課程の編成を行っている。授業評価は毎年実施し、結果を全教員にフィードバックするとともに、次年度の授業計画に反映させ、授業内容・授業運営の改善を図っている。	アパレル企業は会社毎に業務手法が異なるため、教育課程の編成に際し、特定の企業や個人の意見に偏ることなく、広範な情報収集を行い、的確な情報・意見を選別して、学校としての統一見解を示し、広範な企業・職種に就職ができるよう課程編成を行うとともにキャリア教育を実施している。また、インターンシップ（企業研修）を積極的に実施し、在学中に職場体験を行う体制を整備している。

最終更新日付

令和7年5月31日

記載責任者

中村 道雄

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	GPAを導入し、授業毎に公平かつ厳正な成績評価基準を設けるとともに、年間総合成績を基に適切な修了認定を行う。	成績評価基準は授業要項に明示し全学生に伝達し、修了認定は学則の卒業に必要な授業時数を基準に判定している。	教員によって、評価に甘め辛めの差が生じることがあるため、極力平均的な評価となるよう調整を求める場合がある。	<ul style="list-style-type: none"> シラバス（授業要項） 学則 校内ルール
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	作品や習得した知識・技術を発表する場を設け、成果を把握する。	毎年、卒業・修了制作展を開催し、作品や習得した技術等の成果を外部に発表するとともに、優秀者には表彰を実施している。一部HPでも発信中。	学習成果等のプレゼンテーションを授業内で行うことが多いが、外部に対して発信する機会として、企業とのコラボやSNSでの発信を実施。	<ul style="list-style-type: none"> 卒修展プログラム 卒修展動画映像 ホームページ（ファッションショー動画・最新ファッションレポート）

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
GPAを導入し、授業毎に公平かつ厳正な成績評価基準を設けシラバス（授業要項）に明示し全学生に伝達するとともに、修了認定は年間総合成績を基に、学則の「卒業に必要な授業時数」を基準として適切に判定している。また、作品や習得した技術等の成果は、卒業・修了制作展やホームページを通じて外部に発表し、優秀者には表彰を実施している。	年間総合成績において、僅かな要件不足で卒業・進級が不可となる学生に対しては、卒業・進級特別授業を行い不足していた要件を補うことで、卒業・進級できるチャンスを与えている。作品や習得した技術等の成果の把握・発表に関しては、卒業・修了制作展以外に、学習成果を外部に発信する取り組みとして、企業とのコラボによるプレゼンテーションやSNSを利用した作品紹介を行っている。

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

3-11 資格・免許の取得の指導体制

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	国家資格でない為、必須にはしないが、目標とする資格は教育課程において明確に位置づけ、資格取得の向上に努める。	学科の特性に合わせ、学科毎に目標とする資格を定め、関連する授業の一環として指導を行っている。	原則として検定の受験を強制していないため、受験する学生としない学生とで、学習意欲に差が生じる場合がある。	・シラバス（授業要項）
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	資格の種類・級によって、通常授業内で指導するもの、補習授業で対応するもの、自己学習を中心に質疑でフォローするものを区分。	資格毎に、授業の一環として指導するものと、更に補習で対応するものがあり、複数授業に関連する場合は自己学習後、質疑による個別フォローを実施。	複数授業に関連する資格に関しては、自己学習中心の受験となるため、受験に対し消極的になる傾向がある。	・シラバス（授業要項）

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学科の特性に合わせ、学科毎に目標とする資格を定め、関連する授業の一環として指導を行うほか、補習授業での対応や質疑による個別フォローを行うことにより、資格取得の向上に努めている。	ファッション業界の資格は国家資格でない為、原則として検定の受験を強制せず、学生本人の希望に合わせた形で資格取得できるようにしているが、多くの資格については通常授業の一環として指導を行っているため、学習意欲の高い学生は多くが受験している。

最終更新日付

令和7年5月31日

記載責任者

中村 道雄

3-12 教員・教員組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	専修学校設置基準第41条の資格・要件を備えた者を教員として確保する。	資格・要件を備えることは当然であり、その上で、実務経験を重視した教員の採用を行っている。	特になし。	<ul style="list-style-type: none"> 履歴書 職務経歴書 卒業証明書等
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	教員の資質向上は、教育者としての人材育成および業界情報収集の観点から重要であり、適宜実施する。	セミナー・講習会への参加、展示会視察、および、実務教員からの業界情報を共有することで資質向上を図っている。	授業時間等との兼ね合いで、希望するセミナー・講習会へ、日程的に参加できない場合がある。	<ul style="list-style-type: none"> 教職員研修参加報告書
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	小規模な学校であるが故、必要最小限のコンパクトな組織体制で、的確な教育活動を行うことを目標としている。	学科毎の特性を重視した教育に必要な組織を整備し、クラス担当（担任）を配置するとともに、授業科目毎の担当教員を定めている。	実務家教員が多く、仕事の都合で出校できないケースもあるため、予め補講日やバックアップ教員を定めるなど、補完体制の整備に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> 組織図 授業時間割

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学科毎の特性を重視した教育に必要な組織を整備し、クラス担当（担任）を配置するとともに、授業科目毎の担当教員を定め、専修学校設置基準第41条の資格・要件を備えた者を教員として確保している。また、教員の資質向上は、教育者としての人材育成および業界情報収集の観点から重要であり、セミナー・講習会への参加を奨励している。	実務に即した実践的な教育を行うために実務家教員を多く登用しており、仕事の都合で出校できないケースもあるため、予めバックアップ教員を定めるなど、補完体制の整備に努めている。

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

基準 4 学修成果

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職に関しては、学生一人ひとりの希望を重視し、マンツーマンによる個別指導を中心とした、きめ細かい就職指導を実施している。また企業等とのマッチングも重視し、就職率の向上に努めている。今年度の進学者を除く卒業生を母数とした就職者率は94%（前年86%）となっている。</p> <p>資格取得に関しては、ファッション業界の資格は国家資格でないため、取得を推奨するものの、原則として受験は強制でなく、学生本人の自由意思としている。よって取得率は目標としていないが、対策授業および個別フォローを行い、準備を怠らずに受験した者は確実に合格できるよう、きめ細かい指導を実施している。</p> <p>卒業生に関しては、卒業生個々人の考えや置かれた状況により学校との関係性は異なるが、可能な限り卒業生の社会的評価の把握に努め、卒業時の就職先や、その後、卒業生本人から申告のあった勤務先情報等を学内で共有し、データベース化を行っている。</p>	<p>就職率 100%は理想であるが、現実においては、学生一人ひとりの資質に個人差があるため、希望する職種・企業のハードルをクリアできないことも起こり得る。その場合、広範な職種・企業の受験を推奨しているが、学生本人の希望により、時間を掛けて当初の目標を達成するために、就職を決めずに卒業時期を迎えるケースもある。</p> <p>資格に関しては、取得を強制していないため、学生によって学習意欲に差があり、受験のための自己学習が不足するケースも見受けられるが、極力受験者全員が合格することを目指して、担当教員が受験者へのフォローアップを行っている。</p> <p>卒業生は、卒業後の年数経過とともに所在不明者が増加するのは当然であり、ファッション業界は人事異動・転職も多く、卒業生全員の勤務先情報を正確に把握するのは不可能である。一方、学校との連絡を絶たない卒業生も多く存在し、それらの卒業生を中心とした、卒業生同士の横の繋がりから、非公式な情報として現在の勤務状況入手し、卒業生の社会的評価の把握に努めている。そうした中で、社会での活躍が顕著な卒業生には、在校生に向けての講話を依頼して授業に招いている。</p>

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

4-13 就職率

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-13-1 就職率の向上が図られているか	学生一人ひとりの希望を重視した進路指導を行い、企業等とのマッチングを配慮することで、就職率の向上を図る。	マンツーマンによる個別指導を中心とし、学生との対話による、きめ細かい対応を実施。就職者率は94%（前年86%）。	大手アパレルの技術職（特にパタンナー）での就職は求人数が少なく難易度が上昇しているため、広範な受験を推奨。	・就職先一覧名簿

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生一人ひとりの希望を重視し、マンツーマンによる個別指導を中心とした、きめ細かい就職指導を実施している。企業等とのマッチングも重視し、就職率の向上に努めている。今年の進学者を除く就職者率は94%（昨年86%）となっている。	就職率100%は理想であるが、現実においては、学生一人ひとりの資質に個人差があるため、希望する職種・企業のハードルをクリアできないことも当然起こり得る。その場合、広範な職種・企業の受験を推奨しているが、学生本人の希望により、時間を掛けて当初の目標を達成するために、就職を決めずに卒業時期を迎えるケースもある。

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

4-14 資格・免許の取得率

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	国家資格でないため、取得を推奨するものの、原則、受験は強制でなく本人の自由意思とし、取得率は目標としない。	対策授業および個別フォローを行い、準備を怠らずに受験した者は合格できるように指導を実施している。	取得を強制していないため、学生によって学習意欲に温度差があり、受験のための自己学習が不足するケースがある。	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス（授業要項） ・講師日報 ・検定試験合格実績一覧

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
国家資格でないため、取得を推奨するものの、受験は強制でなく、学生本人の自由意思としている。よって取得率は目標としないが、対策授業および個別フォローを行い、受験した者は合格できるように指導を実施している。	取得を強制していないため、学生によって学習意欲に温度差があり、受験のための自己学習が不足するケースも見受けられるが、極力全員合格することを目指して、担当教員が受験者へのフォローアップを行っている。

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	卒業生個々人の考えや置かれた状況により学校との関係性は異なるが、可能な限り卒業生の社会的評価の把握に努める。	卒業時の就職先や、その後、卒業生本人から申告のあった勤務先情報を学内で共有し、データベース化している。	卒業後、年数の経過とともに所在不明者が増加する。また、人事異動・転職が多いため、全員を把握するのは不可能。	・入学者DB (卒業後もフォロー)

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生個々人の考えや置かれた状況により学校との関係性は異なるが、可能な限り卒業生の社会的評価の把握に努め、卒業時の就職先や、その後、卒業生本人から申告のあった勤務先情報等を学内で共有し、データベース化している。	卒業後、年数の経過とともに所在不明者が増加するのは当然であり、ファッション業界は人事異動・転職も多く、卒業生の全員の勤務先情報を把握するのは不可能である。一方、学校との連絡を絶たない卒業生も多く存在し、そういった卒業生の中から、社会での活躍が顕著な人物には、在校生に向けての講話を依頼し授業に招いている。

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

基準5 学生支援

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職ガイダンスで就職活動の方法を解説し、数社の企業を招いて業界セミナーを実施している。また「コミュニケーションマナー」や「ビジネスプレゼンテーション」の授業で、面接や自己PRのトレーニングを実施する一方、教務部に就職担当者を配置し企業との橋渡しを行うとともに、就職担当者・クラス担当（担任）を中心に全教職員が個別指導により学生をサポートし、就職支援を行っている。</p> <p>また、極力退学者を出さないために授業満足度向上に注力するとともに、遅刻・欠席等の出席状況の早期把握および教職員間での共有に努め、タイムリーにクラス担当・副担当（担任）による個人面談を行い、改善が見られない場合は、警告書等の本人・保護者宛の送付を行っている。</p> <p>学生相談に関しては、世間話程度のものであれば、軽微な悩みから重大な悩みの相談まで様々であり、特に重大な問題に関しては、クラス担当・副担当（担任）が相談を受け、必要な場合は校長が同席して面談を行う場合もある。一方、軽微な内容の相談に関しては、学生本人が相談しやすい教職員に気軽に相談できるよう、全教職員が受け入れる体制としている。</p> <p>また、学生が健康に学生生活を送れるよう、毎年健康診断を実施し、所見を本人にフィードバックしている。当然ではあるが、全校禁煙とし、受動喫煙の防止にも努めている。住環境も健康な生活を送る上で重要な要素であるため、地方出身者には、通学に便利な学生会館の紹介や入居に関する個別相談も行っている。経済的支援に関しては、全学生に対する公平性の観点から、特定の学生への学費減免は行っていないが、事情に合わせて納入期限延長や分割などによる支援を実施している。</p> <p>学生が円滑な学校生活を送る上で、保護者との連携が必要な場合もあるため、保護者の連絡先を把握し、状況に応じて電話や文書での連絡・情報交換を行っている。</p> <p>卒業生に対しては、転職の支援や、仕事上の悩み相談、専門知識・技術に関するフォローアップ指導などを行っている。</p>	<p>少人数制であるが故、個々の学生の就職活動状況や志望する職種・企業などの情報を、就職担当者・クラス担当（担任）を中心に複数の教職員が共有しており、教職員が一丸となって学生への就職支援を行っている。</p> <p>中途退学に関しては、今年度は怠学による学力不振、学生生活不適應、経済的事情による就学困難の理由で、中途退学率（除籍含む）はやや増加している。当然、中途退学者を出さないことが望ましいが、経済的理由・病気・進路変更などにより退学するケースがあることは致し方ないものと思われる。</p> <p>少人数制でアットホームな学校であるため、多くの教職員が学生の顔と名前を覚えており、学生と教職員の距離が近い。従って、学生相談は内容によって、学生本人が相談しやすい教職員に相談を持ち掛けることが常である。</p> <p>しかし、重大な内容の相談に関しては、必ずクラス担当（担任）が窓口となり、校長まで報告が上がる体制としている。</p> <p>また、学生一人ひとりが快適な学生生活を送ることができるよう、必要に応じて個別面談を行うなど、きめ細かな対応を行い、可能な限りのサポートを行っている。</p> <p>遅刻・欠席の増加など、学生生活に大きな変化が見られる場合、早いタイミングで警告書等を本人の他、保護者にも送付して状況を伝達し、家庭の協力も得て状況の改善を図るよう努めている。</p> <p>教職員と学生の距離が近いことから、卒業後も学校を訪れやすい雰囲気有しており、多くの卒業生が相談や近況報告のために来校している。</p>

最終更新日付

令和7年5月31日

記載責任者

中村 道雄

5-16 就職等進路

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	就職担当者を配置するとともに、教職員全員が学生を支援する体制で、就職等進路のサポートを行う。	就職担当者を中心とした教職員による個別指導や、就職ガイダンス・授業を通じて学生への就職支援を行っている。	自ら進んで活動する学生と、なかなか動き出さない学生とが混在し、後者の就活開始への誘導に難航することがある。	<ul style="list-style-type: none"> ・就職ガイダンス記録 ・シラバス（コミュニケーションマナー・ビジネスプレゼンテーション） ※個別指導は資料なし

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職ガイダンスで就職活動の方法を解説し、数社の企業を招いて業界セミナーを実施している。また「コミュニケーションマナー」や「ビジネスプレゼンテーション」の授業で、面接や自己PRのトレーニングを実施。一方、教務部に就職担当者を配置し企業との橋渡しを行うとともに、就職担当者・クラス担当（担任）を中心に全教職員が個別指導により学生をサポートし就職支援を行っている。	少人数制であるが故、個々の学生の就職活動状況や志望する職種・企業などの情報を、就職担当者・クラス担当（担任）を中心に複数の教職員が共有しており、教職員が一丸となって学生への就職支援を行っている。

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

5-17 中途退学への対応

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-17-1 退学率の低減が図られているか	極力退学者を出さないために授業満足度向上に注力するとともに、遅刻・欠席状況の早期把握・早期警告を実施。	出席状況をタイムリーに把握し、クラス担当（担任）による個人面談、警告書等の本人・保護者宛送付を行っている。	クラス内人間関係トラブルの予防及び、問題を早期に発見し対処していくことが今後必要となってくる	<ul style="list-style-type: none"> ・出席チェック表 ・警告書ファイル

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
極力退学者を出さないために授業満足度向上に注力するとともに、遅刻・欠席等の出席状況の早期把握および教職員間での共有に努め、タイムリーにクラス担当（担任）による個人面談を行い、改善が見られない場合は、警告書等の本人・保護者宛の送付を行っている。	今年度は怠学による学力不振、学生生活不適應、経済的事情による就学困難の理由で、中途退学率（除籍含む）はやや増加している。当然、中途退学者を出さないことが望ましいが、経済的理由・病気・進路変更などにより退学するケースがあることは致し方ないことと思われる。

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

5-18 学生相談

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	クラス担当・副担当（担任）を配置し相談体制を整備。同時に、全教職員に相談可とし学生が相談しやすい環境を提供。	クラス担当・副担当（担任）が学生相談を受けているが、学生本人が相談しやすい教職員が相談を受けることも多い。	相談内容には個人情報が含まれることも多く、関係する教職員の情報共有に際し、個人情報の取り扱いに注意が必要。	・学生面談シート（重要事項のみ記載）
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	留学生担当職員（兼務）を配置し相談体制を整備。同時に、全教職員に相談可とし留学生が相談しやすい環境を提供。	留学生担当職員のほか、クラス担当・副担当（担任）が学生相談を受けているが、日本人学生と同等の対応を行っている。	留学生が少ないこともあるが、特に課題は生じていない。入学選考での目的意識と日本語力の確認・判定が重要。	・学生面談シート（重要事項のみ記載）

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生相談は、世間話程度のものもあれば、軽微な悩みから重大な悩みの相談まで様々である。特に重大な問題に関しては、クラス担当・副担当（担任）が相談を受け、必要な場合は校長も同席して面談を行う場合がある。一方、軽微な内容や世間話程度の相談に関しては、学生本人が相談しやすい教職員に気軽に相談できるよう、全教職員が受け入れる体制としている。	少人数制でアットホームな学校であるため、多くの教職員が学生の顔と名前を覚えており、学生と教職員の距離が近い。従って、学生は相談内容によって、学生本人が相談しやすい教職員に相談を持ち掛けることが常である。しかし、重大な内容の相談に関しては、必ずクラス担当（担任）が窓口となり、校長まで報告が上がる体制としている。

最終更新日付

令和7年5月31日

記載責任者

中村 道雄

5-19 学生生活

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	全学生の公平性を保ちつつ、可能な範囲で、個別の家計の事情に合わせた支援を行うことが望ましい。	学費は全学生に対する公平性の観点から、本校独自の減免は行っていないが、納入期限延長や分割による支援を実施。	経済的に厳しい学生に対する支援は必要と思われるが、学生間の公平性と、適正な財務運営の点から慎重な判断が必要。	・学費遅延者ファイル
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	学生の健康は勉学および社会に出る上で重要な事項であるため、しっかりと健康管理ができる体制を整備する。	毎年4月に全学生を対象とした健康診断を実施し、結果を本人にフィードバックしている。また全校禁煙としている。	特になし	・健康診断結果ファイル
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	小規模校のため独自の学生寮は保有しないが、優良な学生会館の紹介や通学の利便性・住環境等の情報提供を行う。	通学に便利な学生会館と提携し、希望者に紹介を行うとともに、入居に関する個別相談にも対応し支援を行っている。	特になし	・学生会館資料一式
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	学生の自主性を尊重し、学校として支援するに相応しい課外活動を行う場合においては協力を惜しまない。	以前フリーマーケット開催を支援していたが、現在、特に支援している課外活動はない。	支援の内容や程度、教職員の係わり方とその実現可能性など、様々な問題が絡むため、支援可否の審査が必要となる。	該当なし

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生が健康に学生生活を送れるよう、毎年健康診断を実施し、所見を本人にフィードバックしている。また、全校禁煙とし、受動喫煙の防止に努めている。住環境も健康な生活を送る上で重要な要素であるため、地方出身者には、通学に便利な学生会館の紹介や入居に関する個別相談も行っている。経済的支援に関しては、全学生に対する公平性の観点から、本校独自の学費減免は行っていないが、納入期限延長や分割などによる支援を実施している。</p>	<p>少人数制の学校であるため、学生一人ひとりが快適な学生生活を送ることができるよう、必要に応じて個別面談を行うなど、きめ細かな対応を行い、可能な限りのサポートを行っている。</p>

最終更新日付

令和7年5月31日

記載責任者

中村 道雄

5-20 保護者との連携

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-20-14 保護者との連携体制を構築しているか	学生が円滑な学校生活を送るために、常時、保護者と情報交換を行うことができるよう、連携体制の構築が必要。	身上調査書の提出により、保護者の連絡先を把握し、状況に応じて、電話や文書での連絡・情報交換を行っている。	各家庭の状況により、連携の密度・効果に差が生じることがある。	<ul style="list-style-type: none"> ・身上調査書ファイル ・警告書ファイル

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生が円滑な学校生活を送るために、常時、保護者と情報交換を行うことができるよう、連携体制を構築することが必要であり、本校においては身上調査書により保護者の連絡先を把握し、状況に応じて電話や文書での連絡・情報交換を行っている。	遅刻・欠席の増加など、学生生活に大きな変化が見られる場合、早いタイミングで警告書等を本人の他、保護者にも送付して状況を伝達し、家庭の協力も得て状況の改善を図るように努めている。

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

5-21 卒業生・社会人

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	卒業生は学校の一員であるとの認識から、常に受け入れ態勢を整え、可能な限り協力・支援を行うよう全教職員に徹底。	随時、転職の支援や、仕事上の悩み相談、専門知識・技術に関するフォローアップ指導などを行っている。	卒業生個々人の考えや置かれた状況により学校との関係性は異なるため、どうしても学校を訪れる卒業生は限られる。	該当なし
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	卒業後の再教育プログラムは、新たなコースの設置が必要であり、現状では対応が難しい。	該当なし	外部企業等と連携し、学内でリスキリングの講座を開設を検討	該当なし
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	高校卒業者と社会人とは学習到達目標が異なるため、別科を設ける必要があり、現状では対応が難しい。	該当なし	今後単位制への移行とともにカリキュラムの柔軟性を上げていく予定	該当なし

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生は学校の一員であるとの認識から、常に受け入れられる態勢を整え、可能な限り協力・支援を行うよう全教職員に徹底している。卒業生個々人の考えや置かれた状況により学校との関係性は異なるため、学校を訪れる卒業生は限られるが、訪問してきた卒業生に対し、転職の支援や、仕事上の悩み相談、専門知識・技術に関するフォローアップ指導などを行っている。	少人数制でアットホームな学校であるため、教職員と学生との繋がりが強く、卒業後も学校を訪れやすい雰囲気有しており、多くの卒業生が相談や近況報告のために来校している。

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

基準 6 教育環境

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育上必要な施設・設備・教育用具等を整備し、クリエイティブな空間の提供と実習等作業の円滑な運営に努めるため、定期的に校内のメンテナンスを実施し、学生1人1台のPC・マシン・ボディなどを用意し、快適な学習環境を提供している。また、近年PCを使用する授業が増加傾向にあり、PC教室以外の教室でもノートPCが利用できるように、全教室に校内無線LANを設置している。</p> <p>就職の判断材料となる学外実習・インターンシップとして、デザイナー、スタイリスト等の職場体験、衣裳会社(テレビ局)、アパレル企業での職場実習、ファッションショーでのフィッター体験などを行っている。</p> <p>また、見聞を広め感性を高めるために欧州研修旅行を計画している。</p> <p>防災・安全管理に関しては、建築基準法に基づく建築設備定期検査を実施するとともに、消防計画に基づく自衛消防隊を組織し、年2回の消防用設備等の点検と年1回の訓練を実施している。また、職員による定期的な校内巡回および防犯カメラによる監視により、防犯および火災予防に努めている。</p>	<p>校舎の設計は著名建築家によるもので、建設当時、ファッションを学ぶにふさわしいクリエイティブな空間をコンセプトに設計されたものである。</p> <p>校外研修として、ファッションクリエイター科2年・3年(専攻科)は、織物工場の見学および現地での実習を実施しており、卒業・修了作品のオリジナル素材作り等に効果を上げている。</p> <p>インターンシップは、通常授業との兼ね合いや、参加希望者の公平性の観点から、学生1人当たりの参加回数に制約はあるものの、希望者には極力多くの回数参加できるように配慮している。</p> <p>防災・安全管理に関しては、教職員の多くが、学生の顔と名前を認識しているため、部外者が校内に侵入した場合、短時間のうちに尋問を行うなど、対処することができる。また交番が徒歩1分の距離にあるため、非常時には警察による迅速な対応が可能である。</p>

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

6-22 施設・設備等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	教育上必要な施設・設備・教育用具等を整備し、クリエイティブな空間の提供と実習等作業の円滑な運営に努める。	定期的に校内のメンテナンスを実施。学生1人1台のPC・マシン・ボディなど、快適な学習環境を提供している。	PCを使用する授業が増加し、PC教室のみでの対応が難しくなりつつあるため、全教室に校内無線LANを設置済。	<ul style="list-style-type: none"> ・備品台帳 ・修繕工事業者等ファイル

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育上必要な施設・設備・教育用具等を整備し、クリエイティブな空間の提供と実習等作業の円滑な運営に努めるため、定期的に校内のメンテナンスを実施し、学生1人1台のPC・マシン・ボディなどを用意し、快適な学習環境を提供している。近年PCを使用する授業が増加傾向にあり、PC教室以外の教室でもノートPCが利用できるように、全教室に校内無線LANを設置している。	校舎の設計は著名建築家によるもので、建設当時、ファッションを学ぶにふさわしいクリエイティブな空間をコンセプトに設計されたものである。

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	就職の判断材料となる学外実習、インターンシップを実施。また、見聞を広め感性を高めるために海外研修を実施する。	デザイナー、スタイリスト、衣裳会社等のインターンシップの他、アパレル企業での学外実習や欧州研修旅行を実施。	ヨーロッパでのテロ発生以降、欧州研修旅行の希望者が減少し、一時休止している。外部実習の機会を今後増加させていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修報告レポート ・欧州研修旅行ファイル

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職の判断材料となる学外実習、インターンシップとして、デザイナー、パタンナー、スタイリスト等の職場体験、衣裳会社（テレビ局）、アパレル企業での職場実習、ファッションショーでのフィッター体験などを行っている。また、見聞を広め感性を高めるために欧州研修旅行を実施（今年度は休止）している。	インターンシップは、通常授業との兼ね合いや、参加希望者の公平性の観点から、学生1人当たりの参加回数に制約はあるものの、希望者には極力多くの回数参加できるように配慮している。ファッションクリエイター2年・3年（専攻科）は、校外研修として織物工場の見学および現地での実習を実施しており、卒業・修了作品のオリジナル素材作り等に効果を上げている。

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

6-24 防災・安全管理

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	消防計画に基づき、自衛消防隊を組織するとともに、消防用設備等の定期点検および訓練を定期的実施する。	年2回の消防用設備等の点検と年1回の訓練を実施し、設備に不具合があった場合は迅速に改良している。	訓練は、授業運営および立地等の状況から、学生の参加が困難であるため職員で実施。非常時には連絡・誘導係を担う。	<ul style="list-style-type: none"> 消防計画 自衛消防訓練通知書 消防用設備等点検結果報告書
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	校舎（建築設備）の保全および防犯・火災の予防を徹底するべく、安全管理体制を整備し適切な運用を行う。	建築設備定期検査を実施。職員による校内巡回および防犯カメラによる監視により、防犯および火災予防に努めている。	防災地図（広域避難場所）を校内に掲示しているが、記憶している学生は少数。オリエンテーション等での周知が必要。	<ul style="list-style-type: none"> 自主検査チェック表（日常） 建築設備定期検査報告書 建築設備定期検査報告済証

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
建築基準法に基づく建築設備定期検査を実施するとともに、消防計画に基づき自衛消防隊を組織し、年2回の消防用設備等の点検と年1回の訓練を実施している。また、職員による定期的な校内巡回および防犯カメラによる監視により、防犯および火災予防に努めている。	教職員の多くが、学生の顔と名前を認識しているため、部外者が校内に侵入した場合、短時間のうちに尋問を行うなど、対処することができる。また交番が徒歩1分の距離にあるため、非常時には警察による迅速な対応が可能である。

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

基準 7 学生の募集と受入れ

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生募集に関しては、ホームページを充実させるとともに、専門学校への進学が多い全国の高校への学校案内の送付、および入学実績・資料請求が多い首都圏を中心とした高校への訪問・面会を実施し、情報提供を行っている。また、進学情報サイト・進学情報誌を利用した広報活動、および、学校説明会・体験入学・学校見学による学校概要の周知に努めている。</p> <p>入学選考に関しては、出願時に入学資格の確認を行い、書類審査および必要に応じて面接を実施し、本人の学習意欲と、本校での学習により成長が見込まれるかという観点から、入学に適格か否かの選考を実施している。</p> <p>学納金は経費内容に対応した算定を行い決定しており、入学前に入学辞退の申し出があった時は、事情を鑑み、原則として入学金を除く授業料等を返還している。</p>	<p>入学者は首都圏（1都3県）を中心に日本全国に及ぶため、本校の規模からして高校訪問できる学校数は限られるものの、極力多くの高校を訪問するように努めるとともに、全国の高校への学校案内の送付による情報提供および推薦依頼を実施している。</p> <p>コロナ禍以降は、リモートでの学校説明会や面談を実施し、参加者・利用者の利便性向上に努めてきた。</p> <p>またオープンキャンパスの機会を増やし、より入学検討者に詳細な説明ができるように取り組んでいる。</p> <p>調査書等の記載事項や入学選考時に把握した特記事項は、クラス担当（担任）および関係する教員にフィードバックし、授業運営に活かしている。</p>

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

7-25 学生募集活動は、適正に行われているか

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	高等学校等接続する教育機関に対し、適切な情報提供を行い、入学対象者の認知度向上に努める。	ホームページを充実させるとともに、全国の高校への学校案内の送付および首都圏の高校への訪問・面談を実施。	小規模校であるため、訪問できる高校数は限られる。未訪問校には学校案内送付による情報提供および推薦依頼を実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・高校リスト ・高校訪問記録 ・ホームページ
7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	入学者を確保するために、適切かつ効果的な学生募集活動を実施するとともに、学校の知名度向上に努める。	ネット媒体・紙媒体による広報活動および、学校説明会・体験入学・学校見学により学校概要の周知に努めている。	時代の流れに即した広報活動が求められ、現在は SNS の活用が必須であるため、費用対効果を考慮し適切な運用を実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・広報媒体入稿原稿控 ・学校説明会等参加者表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>ホームページを充実させるとともに、専門学校への進学が多い全国の高校への学校案内の送付、および入学実績・資料請求が多い首都圏を中心とした高校への訪問・面会を実施している。</p> <p>また、進学情報サイト・進学情報誌を利用した広報活動、および、学校説明会・体験入学・学校見学による学校概要の周知に努めている。</p>	<p>入学者は首都圏（1都3県）を中心に日本全国に及ぶため、本校の規模からして高校訪問できる学校数は限られるが、極力多くの高校を訪問するように努めるとともに、全国の高校への学校案内の送付による情報提供および推薦依頼を実施している。</p> <p>時代の流れに即した広報活動として、現在は SNS の活用が必須であるため、費用対効果を考慮し適切な運用を実施している。</p>

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

7-26 入学選考

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	学則上の入学資格および選考方法を募集要項、その他広報媒体に明記し、入学選考時に適切な運用を行う。	出願時に入学資格の確認を行い、書類審査および必要に応じて面接を実施し、入学に適格か否かの選考を実施している。	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・入学願書 ・調査書等 ・面接（面談）シート
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	入学者の傾向・特徴等を把握し、クラス担当（担任）を中心とした教員と、その情報の共有を図り、授業運営に反映させる。	入学選考時に把握した特記事項は、面接シートに記し、クラス担当（担任）および関係する教員にフィードバックし、授業運営に活かしている。	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・調査書等 ・面接（面談）シート

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
出願時に入学資格の確認を行い、書類審査および必要に応じて面接を実施し、入学に適格か否かの選考を実施している。 また、調査書等の記載事項や入学選考時に把握した特記事項は、クラス担当（担任）および関係する教員にフィードバックし、授業運営に活かしている。	入学者の状況を把握した上で、授業レベルや進行スピードの調整ができる授業科目に関しては、調整を行う場合がある。

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

7-27 学納金

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	経費内容に対応した学納金の算定を行い、学費を決定する。	「学費変更の積算基礎」に基づき、経費内容に対応した学納金の算定を行い、学費を決定している。	家計への負担を配慮し学費上昇を最小限に留めているが、物価動向や学生数の変動状況によっては見直しが必要。	・学費変更の積算基礎
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱いを行っているか	入学辞退者に対し、授業料等について適切な取扱いを行う。	入学前に入学辞退の申し出があった時は、事情を勘案し、原則として入学金を除く授業料等を返還している。	特になし	・学費返還請求書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
「学費変更の積算基礎」に基づき、経費内容に対応した学納金の算定を行い、学費を決定している。 また、入学前に入学辞退の申し出があった時は、事情を鑑み、原則として入学金を除く授業料等を返還している。	特になし

最終更新日付

令和7年5月31日

記載責任者

中村 道雄

基準 8 財務

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>一昨年度までは無借金であったが、コロナ禍を原因とした入学者数への影響は如何ともし難く、昨年度から借入調達を実施している。アフターコロナでの自然回復に期待しつつ、同時に環境変化への対応策を検討し、早期の施策実施に努める。</p> <p>決算に関しては、税理士との意見交換を行い、決算・事業実績報告および予算・事業計画策定の参考材料としている。</p> <p>中期計画に関しては、教育目標との整合性を図り、重要な変更を行う場合は中期計画を策定、重要な変更を計画しない場合は、中期的なシナリオを考慮した上で、次年度計画・予算のみを策定している。</p> <p>監査に関しては、監事2名を置き、決算後2月以内に適切に監査を実施し、理事会に監査報告書を提出している。</p>	<p>特になし</p>

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

8-28 財務基盤

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	一昨年度までは無借金であったが、コロナ禍を原因とした入学者数への影響は如何ともし難く、昨年度から借入調達を実施している。アフターコロナでの自然回復に期待しつつ、同時に環境変化への対応策を検討し、早期の施策実施に努める。	中長期的なシナリオを想定し、財務基盤の安定化を図る。	18歳人口の減少等により、学生数は減少基調にあるため、教育内容の充実を図り、外部への的確な情報発信を継続実施。	・事業報告書
8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	決算において、主要財務数値を把握・分析し、学校経営の指針とする。	税理士との意見交換を行い、決算・事業実績報告および予算・事業計画策定の参考材料としている。	特になし	・決算書 ・収支予算書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
一昨年度までは無借金であったが、コロナ禍を原因とした入学者数への影響は如何ともし難く、昨年度から借入調達を実施している。アフターコロナでの自然回復に期待しつつ、同時に環境変化への対応策を検討し、早期の施策実施に努める。 決算に関しては、税理士との意見交換を行い、決算・事業実績報告および予算・事業計画策定の参考材料としている。	18歳人口の減少等により、学生数は減少傾向にあるため、より一層教育内容の充実を図り、外部への的確な情報発信を継続的に実施することで、入学者（学生数）の確保に努める。

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

8-29 予算・収支計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	教育目標との整合性を図り、中期的なシナリオを考慮した上で、次年度計画・予算を策定する。	重要な変更を行う場合は中期計画を策定、重要な変更を計画しない場合は、次年度計画・予算のみを策定している。	近年、環境要因の変化が激しく、入学者数の予測が困難な状況にあり、精度の高い中長期計画の策定は難しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画書 ・収支予算書
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	予算及び計画に基づき、業務運営を行うとともに、適正な執行管理を行う。	ルーティーン業務は予算・計画に織り込み済のため結果報告とし、突発的な修繕等の実施は都度管理者決裁のうえ実行。	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・事業報告書 ・決算書 ・見積書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育目標との整合性を図り、重要な変更を行う場合は中期計画を策定、重要な変更を計画しない場合は、中期的なシナリオを考慮した上で、次年度計画・予算のみを策定している。</p> <p>また、ルーティーン業務は予算・計画に織り込み済のため管理者への結果報告（伝票回付）とし、突発的な修繕等の実施は都度管理者決裁のうえ実行。</p>	組織が小規模であるため、執行管理に要する時間が短く、機動的な判断が可能。

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

8-30 監査

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施。	監事2名を置き、決算後2月以内に適切に監査を実施し、理事会に監査報告書を提出している。	特になし	・監査報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
監事2名を置き、決算後2月以内に適切に監査を実施し、理事会に監査報告書を提出している。	特になし

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

8-31 財務情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用する。	私立学校法に基づく財務情報公開体制は整備されており、ホームページおよび事務所内での閲覧を可能としている。	特になし	・事業報告書等（事業報告書、財産目録、監査報告書）

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
私立学校法に基づく財務情報公開体制は整備されており、ホームページおよび事務所内での閲覧を可能としている。	特になし

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

基準 9 法令等の遵守

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>法令や専修学校設置基準を遵守し学校運営を行っている。</p> <p>個人情報保護に関しては、プライバシーポリシー（ホームページに記載）を策定しており、個人情報書類の施錠保管、校外持出し禁止、シュレッダー廃棄等を、会議等で教職員に周知徹底するとともに、PC・サーバーのセキュリティを強化し、アクセス権限の管理を行っている。</p> <p>自己点検・評価は、毎年実施し、PDCAサイクルにより業務運営に反映させている。自己点検・評価および学校関係者評価の結果は、ホームページにて公開中。</p> <p>教育情報に関しては、入学対象者および就職先企業等に教育内容を周知するために、ホームページで全学科のシラバス（授業要項）を公開する等、ホームページを中心に、学校案内、学校説明会、SNSなどで情報公開を実施している。</p>	<p>特になし</p>

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	法令や専修学校設置基準を遵守し学校運営を行う。	法令や専修学校設置基準を遵守し学校運営を行っている。	特になし	特になし

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
法令や専修学校設置基準を遵守し学校運営を行っている。	特になし

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

9-33 個人情報保護

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	個人情報保護法を遵守し、プライバシーポリシーを策定して教職員に基本的な考え方を伝達し、確実に実行する。	個人情報書類の施錠保管、校外持出し禁止、シュレッダー廃棄等を周知徹底。PC・サーバーのセキュリティー強化。	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーポリシー ・業務運営方針

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
個人情報保護に関しプライバシーポリシーを策定して、基本的な考え方を教職員に伝達しており、個人情報書類の施錠保管、校外持出し禁止、シュレッダー廃棄等を周知徹底するとともに、PC・サーバーのセキュリティーを強化し、アクセス権限の管理を行っている。	特になし

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

9-34 学校評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	毎年、自己点検・評価を実施し、PDC Aサイクルにより業務運営に反映させる。	小規模校であるが故、校長を中心に、職員が連携して自己点検・評価を実施している。	特になし	・自己点検評価報告書
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	自己点検・評価の結果を公表する。	自己点検・評価の結果をホームページにて公開中。	特になし	・ホームページ
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	学校関係者評価委員会を組織し、毎年、学校関係者評価を実施する。	業界関係者、保護者、卒業生等で委員会を組織し、学校側のオブザーバーが参加する形で学校関係者評価を実施している。	特になし	・学校関係者評価報告書
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	学校関係者評価の結果を公表する。	学校関係者評価の結果をホームページにて公開中。	特になし	・ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
毎年、自己点検・評価を実施し、PDC Aサイクルにより業務運営に反映させている。 自己点検・評価および学校関係者評価の結果は、ホームページにて公開中。	特になし

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

9-35 教育情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	入学対象者および就職先企業等に教育内容を周知するために、教育情報の公開を行う。	ホームページで全学科の授業要項を公開する等、ホームページを中心に、学校案内、学校説明会、SNSなどで公開。	情報発信ツールが多様化しているため、それぞれのツールの利点を理解し、効果的な使い分けが必要。	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ ・学校案内

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学対象者および就職先企業等に教育内容を周知するために、ホームページで全学科のシラバス（授業要項）を公開する等、ホームページを中心に、学校案内、学校説明会、SNSなどで教育情報の公開を行っている。	特になし

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

基準 10 社会貢献・地域貢献

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本来の教育活動に支障のない範囲で、社会貢献・地域貢献を行うことを方針とする中、社会貢献活動の一環として、プロのパタンナーが集いドレーピングのデモンストレーションを視察するワークショップの場を提供することで、業界関係者の自己啓発に寄与している。</p> <p>学生のボランティア活動については奨励するものの、現状、学校としての取り組みはなく、個々の学生が取り組む活動がある場合において、学業に支障がない範囲で協力・支援を行っている。</p>	<p>ドレーピングのデモンストレーションは、在校生も視察できるため、在校生にとっては普通の授業では経験し得ない、良い体験となっている。</p> <p>今後、時代の流れに対応したSDGsの取り組みを検討し、学校としてのSDGsのあり方を模索する。</p>

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	本来の教育活動に支障のない範囲で、社会貢献・地域貢献を行う。	プロのパタンナーが集うドレーピングのワークショップの場を提供することで業界関係者の自己啓発に寄与。	時代の流れに対応したSDGsの取り組みを検討し、学校としてのSDGsのあり方を模索する。	特になし
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	今後は国際教育についても今後力を入れていく	現状は実施なし	留学生の受け入れや海外研修などを通して国際交流にも取り組んで行く。	該当なし

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本来の教育活動に支障のない範囲で、社会貢献・地域貢献を行うことを方針とする中、社会貢献活動の一環として、プロのパタンナーが集いドレーピングのデモンストレーションを視察するワークショップの場を提供することで、業界関係者の自己啓発に寄与している。（今年度は休止）	ドレーピングのデモンストレーションは、在校生も視察できるため、在校生にとっては普通の授業では経験し得ない、良い体験となっている。今後、時代の流れに対応したSDGsの取り組みを検討し、学校としてのSDGsのあり方を模索する。

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------

10-37 ボランティア活動

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	学生のボランティア活動を奨励する。	現状、学校としての取り組みはないが、個々の学生が取り組む活動については、学業に支障がない範囲で協力・支援する。	該当なし	該当なし

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生のボランティア活動を奨励するが、現状、学校としての取り組みはなく、個々の学生が取り組む活動がある場合においては、学業に支障がない範囲で協力・支援を行う。	特になし

最終更新日付	令和7年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------	-------	-------